

宮森の涙劇で継ぐ

【うるま】「あの日を忘れない」。旧石川市（現うるま市）の宮森小学校に米軍ジェット機が墜落した事故から54年目となる30日に同校で開かれた慰霊祭で、事故の犠牲になった児童と同年齢の子どもたちが出演するミュージカル劇「ひまわりの咲くころに」が初めて上演された。事故の悲劇を次代に受け継ぐと熱演する子どもたちの姿に、遺族らは「事故を風化させてはいけない」との思いを新たにされた。（一面参照）



宮森小の米軍ジェット機墜落事故をテーマにしたミュージカル劇を演じる子どもたち＝30日、うるま市・宮森小学校

児童ら54年前の惨状再現

幼き命「忘れてはいけない」

出演したのは、劇団「石川ひまわりキッズシアター」のメンバーで、幼稚園から小学6年生までの12人。劇では、日常の学校生活が、ジェット機墜落によって一変して戦場のような姿に変わり、一瞬で命を奪われていった児童を熱演した。

うるま市立伊波小6年の比嘉七海さん(11)は遺族の前で緊張したが、「事故のことを忘れてはいけない」という思いで演じた」という。「自分のやりたいことを一瞬で奪われた子どもたちはかわいそう。二度とこのようなことが起きてほしくない」と力強く話した。

事故当時6年生で、自宅にいた母親と同級生3人を亡くした金城秀康さん(65)は、家の下敷きとなった母親の姿を今でも忘れることができない。「遺族にとっては語ることもつらいが伝えなければ忘れ去られてしまう。事故を風化させないためにも次世代につないでいかなければ」と、子どもたちの取り組みに期待した。

劇は、体験者や遺族らでつくるNPO法人「石川・宮森630会」と、子育て支援のNPO法人「りんくい・いしかわ」が企画した。